

「三井不動産ロジスティクスパーク(MFLP)一宮」竣工

～全国配送・市内配送を両立する好立地で、重量物保管にも対応～

本物件のポイント

- 「MFLP 一宮」が 2025 年 5 月 31 日に竣工。首都圏から関西圏までの広域配送・名古屋市内への配送の両方に対応可能な好立地。
- 1・2 階倉庫の積載荷重は 3.0t/㎡、2 階は低床バースを採用し、重量物保管に対応。
- 共有部には地域の伝統素材を活かし、利用者に安らぎを与えるデザインを採用。
- 太陽光パネルの屋根設置などにより、DBJ Green Building 認証(4 つ星)、『Nearly ZEB』認証を取得予定。

三井不動産株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長 植田 俊、以下「三井不動産」)は、愛知県一宮市において開発を進めていた「三井不動産ロジスティクスパーク一宮(以下、「MFLP 一宮」)」が 2025 年 5 月 31 日に竣工いたしましたことをお知らせいたします。



「MFLP 一宮」外観

1. 物流効率と人材確保を両立する好立地

「MFLP 一宮」は、首都圏・関西圏への広域配送に対応し、「物流の 2024 年問題」の解決策の一つである「中継輸送」の拠点としても利用可能な好立地に位置します。「一宮西 IC」「一宮稲沢北 IC」に近接しており、それぞれ名神高速道路・東海北陸自動車道へアクセス可能です。さらに愛知県内の南北を横断する主要幹線道路の「西尾張中央道」に面しており、名古屋市内への配送もスムーズです。

また、最寄り駅の名古屋鉄道尾西線「荻安賀(かりやすか)駅」からのアクセスも徒歩 9 分と、従業員の通勤利便性も優れています。

2. 「重量物の取り扱い」と「働きやすさ」を追求した施設

スロープ方式を採用し、1・2 階倉庫は 3.0t/㎡の重量に対応でき、重量物の保管が可能です。また 2 階トラックバースは低床バースを採用し、フォークリフトが自由にトラックバースと倉庫内を行き来できるため、重量物の取り扱いにおける作業効率が向上します。

また、3 階には従業員用のラウンジを設置。ソファ席やリクライニングチェア、カウンター席などに加えて、個室の会議スペースも用意しています。曲面天井や小上がりにより様々な場を設けることで、従業員がリラックスした状態で快適に休憩ができるように設計しています。



低床トラックバース



従業員用ラウンジ

3. 地域素材を使用し利用者に安らぎを与える施設デザイン

外装は、施設南側 2・3 階の外壁を一部突出させており、この範囲は外壁色を他と切り替えるとともに、連装窓やガラリにより水平方向の広がり強調した意匠にすることで、本施設の外観を特徴づける要素としました。

エントランスホールは来訪者を地域の素材で暖かく迎え入れるような空間を目指しました。柔らかな光を拡散する光膜天井を設置するとともに、古くから織物の産地として名高い一宮市で生産された尾州織物クロスを仕上に採用しています。



南外壁



エントランスホール

4. 環境に配慮した物流施設

昨今の ESG 推進の高まりを意識しつつ、環境配慮に対しての取り組みを多数行っています。その一つとして、屋上に設置された約 542kW の太陽光パネルを館内消費で利用することを予定しています。このような環境配慮の取り組みを通して、DBJ Green Building 認証(4 つ星)、『Nearly ZEB』認証を取得予定です。



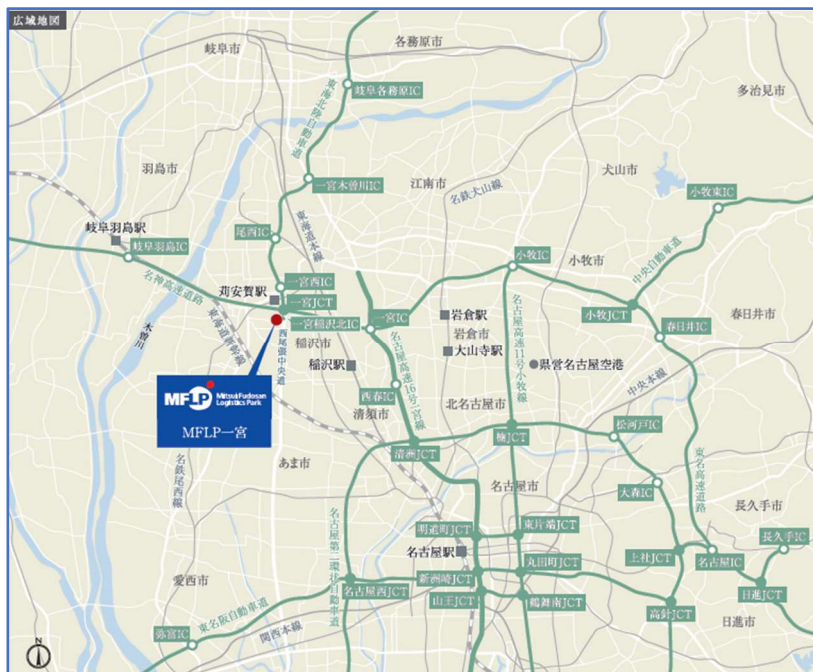
太陽光発電設備(イメージ)

■施設概要

名 称	三井不動産ロジスティクスパーク一宮(MFLP 一宮)
所 在	愛知県一宮市萩原町林野字天田 32 番1
敷地面積	30,757.90 m ²
延床面積	65,908.99 m ²
規模・構造	4 階建て・スロープ・S 造
設計者・施工者	矢作建設工業株式会社
竣工	2025 年 5 月 31 日

■位置図

<広域図>



<詳細図>



■三井不動産の物流施設事業について

三井不動産は、2012 年 4 月に物流施設事業部(現 ロジスティクス本部)を立ち上げ、物流施設開発に取り組んでおります。現在では、「三井不動産ロジスティクスパーク(MFLP)」を旗艦ブランドとして、「MFLP 船橋Ⅰ」や「MFLP 海老名Ⅰ」など、国内外で開発施設 76 物件(国内:66 物件 海外:10 物件)を展開しております。「ともに、つなぐ。ともに、うみだす。」を事業ステートメントとして掲げ、入居企業の皆さまの課題解決パートナーとして、多種多様なヒト・モノ・コトをつなげること、既存の枠にとらわれない価値づくりに挑戦してまいります。

<https://www.mitsui-fudosan.co.jp/>

■三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「&マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024 年 4 月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY(重点的に取り組む課題)」として、「1. 産業競争力への貢献」、「2. 環境との共生」、「3. 健やか・活力」、「4. 安全・安心」、「5. ダイバーシティ&インクルージョン」、「6. コンプライアンス・ガバナンス」の6つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取り組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】

・「グループ長期経営方針」 <https://www.mitsui-fudosan.co.jp/corporate/innovation2030/>

・「グループマテリアリティ」 https://www.mitsui-fudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality/